

初春を迎えいかがお過ごしでしょうか。本年も何卒宜しくお願い致します。

今年は東京オリンピックも行われますが、以前この時報でも書かせていただきました同じ江戸川区出身で急性白血病を発症し治療中の水泳選手、池江璃花子さんが退院されたとの朗報がありました。次のフランス、パリオリンピックを目指されるようですがとにかく焦らずじっくり取り組んでいただきたいものです。

さて、オリンピックまでにはまだまだこれから寒さ本番という季節になります。

富山県の豪雪地帯で、世界遺産にもなっている白川郷・合掌造りがありますがそこからさほど距離も離れていない場所に浄土真宗大谷派の行徳寺というお寺があります。実は私も以前、研修旅行で参拝させていただいたことがあります。

その日はお寺のご事情で、坊守様がいろいろとお相手くださいました。歴史を感じさせる重厚なたたずまいのその寺院は、冬になると雪で参道が埋まってしなうため、朝お参りに来られる熱心なご門徒のため住職は毎朝1時間半ほどかけて雪

かきをされるそうです。そのお話に自分の身を重ね、威儀を正す思いがしたことを覚えています。

さてこの行徳寺になぜ参拝させていただいたかという『蓮如上人御一代聞書』にも読まれる「赤尾の道宗さん」ゆかりのお寺であるからでした。

道宗さんは、幼い頃ご両親を亡くしその悲しみがご縁となって蓮如上人にお会いすることができ、その後山奥の赤尾から蓮如上人がいらっしゃるお寺(京都または福井県吉崎)まで幾度となく熱心に足を運びご法話を聴かれました。そして蓮如上人がご往生なさった後「赤尾道宗二十一箇条覚書」というものをお書きになり蓮如上人からお育て頂いた大切な内容をまとめられました。その第一条に「後生の一大事、いのちのあらんかぎりは油断あるまじきこと」とあります。その意味は「死んだ先のことを人生の一番大切なこととして油断なく生きる」ということです。

道宗さんにはあるエピソードがあります。それは、毎日夜寝るときあったかい布団じゃなく固い四十八本

の割りの木の上に寝た方だという話です。そのことを物語る木像を行徳寺で拝見しました。穏やかな顔で横になっておられる体の下に四十八本の割り木が確かにありました。

なぜそのようなことをなさったのか?その答えが先程の「後生の一大事、いのちのあらんかぎりは油断あるまじきこと」というお言葉にあるようです。

寝るときは誰でもゆっくり休みたいですし油断するものかもしれませんが、道宗さんというお方はその時間ももったいないと思われたお方です。道宗さんほど深く阿弥陀様のお救いを聴かれていた方は寝ている時間も少しでも自分の後生を必ずお救いくださる阿弥陀様のことを忘れたくない為、わざと寝にくい割り木を阿弥陀様のお誓いの数である四十八本敷かれたそうです。

このようなことは、到底私などにはできないことですが、阿弥陀様の「お前を死んで終わりじゃなく、必ず浄土で仏に成らせてみせる」というお心がいつでもどこでも、もちろん寝ている時でも届いているぞと教えていただくお話です。

常例・写経と法話会（妙蓮寺にて）

1月9日（木）14時～

写経は『仏説阿弥陀経』を少しずつ進めています。（テキスト代 864円税込）

法話会では『正信偈』を少しずつあじわっていきます。

「信心は聞くということにつきるのである」蓮如上人

法話会のご案内

日時 令和2年 2月9日(日)

午後 2時～ おつとめ 『正信偈』

2時30分頃から ご法話

（30分2席 休憩有 講師 義本弘導師 大阪府）

その後講師を交え茶話会

場所 妙蓮寺 駐車場有

江戸川区一之江2-17-5 電話 03-6231-4733

どうぞお気軽に
お越しください！



《講師紹介》

よしもとこうどう

義本弘導師 大阪府 浄行寺

「大阪の義本です。」とまず最初によくご挨拶されるお馴染みの先生です。妙蓮寺住職の恩師でもあり、ご多用の中、今年も大阪弁で楽しくわかりやすくお話くださると思います。